

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473600706	事業の開始年月日	平成16年6月1日
		指定年月日	平成16年6月1日
法人名	有限会社松田メディカルサービス		
事業所名	グループホームしんばしの家		
所在地	(245-0009) 横浜市泉区新橋町1515-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年1月24日	評価結果 市町村受理日	令和4年7月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者がこれまでに経験してきたことや、昔ながらの知恵を発揮できる環境づくりに努めています。職員とご利用者を“介護する人される人”ではなく“共に暮らす仲間”として、様々なリスクと自立支援のバランスをとりながら炊事や洗濯の家事をはじめ、草花の手入れや玄関周りの掃除等を皆でおこなっています。車いすの方も歩ける方も、外で気分転換できる機会を多く設けています。ご利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるような支援を実践しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月18日	評価機関 評価決定日	令和4年5月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄線「緑園都市」駅から徒歩約10分の静かな住宅地に位置しています。庭には花が植わった沢山のプランターが置かれ、花や実のなる木もあり和やかな環境の2階建ての2ユニットのグループホームです。

<優れている点>

なるべく外出の機会を多く持つようにしています。日中は玄関ドアに鍵をかけずに希望の時に安全を配慮して外出できるように支援しています。陽気の良い日は運動と気分転換を兼ねて近くの神社や公園などに出かけています。公園に弁当持参で出かけることもあります。庭の花や木を眺められるバルコニーで外気に触れながらお茶の時間などを過ごしています。利用者は「介護される人」ではなく炊事や洗濯、掃除等を能力に合わせて自発的に行っています。食事作りは食材の調達から調理まで一貫してホームで行っています。食材の購入や調理は利用者の参加のもと行っています。

<工夫点>

現在、運営推進会議を書類連絡で交わしていますが、手間と時間を要しています。SNS利用によって双方向の会議が出来るように委員と協議・検討を行っています。すでに職員への緊急連絡手段にSNSの方法を利用しています。職員の自己研鑽などにeラーニングを推奨・支援しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームしんばしの家
ユニット名	木の実

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員一人ひとりが理念の意味と内容を十分に理解して、掲げている理念に基づいたサービス提供に努めている。	事務室入り口に「理念」を掲示し常に目に触れるようにし浸透を図っています。日常のサービス提供についてフロア会議などで理念の実践ができているかを話し合い、振り返り、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以前に地域の行事によく参加させていただいたことと、継続しての日々の散歩により、地域の方との交流が保たれている。職員もご利用者も積極的に挨拶をしている。	コロナ禍前は地域の夏祭りや学校の行事などに参加し交流を図っています。近所の人から野菜の差し入れなどもあり、食材として利用し、食卓にあがっています。利用者が楽しく気分転換出来るようにフラダンスなどのボランティアの来訪の受け入れもしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	発信することが難しくなっているが、玄関掃除や外に出て洗濯物を干したり取り込んでいる姿を見かける機会は多いと思われる。発信できる方法を見つけ実践していきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回おこなっていた会議も、現在は書面会議（報告のみ）としている。一方的な報告にならないよう、返信用封筒を同封し、活動状況や報告に関する意見、質問等は別紙に記入して返送いただいている。リモートでの会議を検討中。	コロナ禍の現在は2ヶ月に1回、対面式の会議を中止し、書面による会議を行っています。活動状況報告を郵送時に返信用封筒を同封し、委員から意見や質問を受けています。委員からは利用者に新型コロナウイルス感染症が生じない活動に感謝と激励などの返信もあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に運営に関することの質問をおこなっている。	事業所の指定更新のため所管課に提出書類などの照会や指示を仰ぎ、手続きに齟齬のないように連絡を交わしています。利用者の介護保険更新手続きの代行も行っています。また生活支援課とは利用者の状況説明を行うなど連絡を取り合い連携に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束にまつわる話題を出し合っている。また身体拘束に関する職員アンケートを実施し、理解を図るとともに勉強会の参考資料としている。フロア会議の中で話し合いをもつこともあり、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、職員アンケートや行政発行の資料などを参考に勉強会を実施しています。また日常のケアの中で不適切な行為がないかなどについて話し合い、注意喚起を図っています。委員会で話し合った内容は全職員に周知されています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての職員アンケートを実施し職員同士、意識の把握に努めている。入浴や更衣の時には不自然な痣や傷がないか確認している。ヒヤリハット報告をおこなったり、個人記録に記載し、フロア会議で取り上げている。	虐待について職員アンケートを行って振り返りを行っています。入浴や更衣の時に不自然な痣や傷がないか確認しています。ヒヤリハット（危ないことが起こったが、幸い災害には至らなかった事象のこと）の中で虐待に関係する事例がないかなどについてもフロア会議などで話し合い注意喚起を行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今年度は研修に参加できなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は項目ごとに出来るだけ分かりやすい言葉で疑問点をお聞きしながら説明することを心がけている。料金の見直し、改定があった場合は書面にて説明し、質問等があった場合の窓口になる人名と連絡先を記載している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者からの意見、要望は記録に残し、ご家族には、写真を活用して手紙で活動報告をし、運営、サービス提供に関する問い合わせを随時おこなっている。その情報は記録に残して職員間で共有している。	利用者の意見・希望は日常の中で把握・記録し、職員間で共有しています。1ヶ月に1回、「しんばし便り」を発行し、利用者のアイロンかけや雑巾縫い、花植えなど活動の様子の写真を掲載し、手紙と共に家族へ送付・情報提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案はフロア会議や個別に話を聞く場を設けている。会社や事業所の理念や方針に基づき反映させている。	管理者は日常的に職員から話を聞くように心掛けています。職員は連絡帳にも記録しています。フロア会議や職員面談でも職員と意見交換し、運営に反映するようにしています。職員は法人の責任者とも意見を交わす機会があります。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者、職員と直接話をする機会が多く、管理者、職員の勤務状況や心情の把握に努めている。	法人の責任者は管理者・職員の勤務状況や職員の思い、事業所の実態について把握し、モチベーションをもって働けるように努めています。事業所は勤務シフトや休憩、有給休暇の取得などについても考慮し働きやすい環境に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スタッフ会議などの機会を利用して勉強会を実施しています。	スタッフ会議など勉強会を実施しています。初任者研修や実務者研修などの資格取得を推奨し受講料や交通費、手当の支給もしています。管理者や経験豊かな職員が新人職員のOJT研修を担当しています。またeラーニングによる受講も勧め、支援しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会やサポートプロジェクトを通じて、同業者と交流することができ、サービスの質の向上の努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前の段階でご本人とお会いし、直接お話を伺うように努めている。ご本人が不安な気持ちにならないようにご家族にも協力していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前の段階でご家族に直接お会いして、特に困っていることや施設利用に関する不安なことをお聞きするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族に話を伺い、何に困っているのか、何を必要としているのかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	“介護する人される人”ではなく、炊事、洗濯、掃除等、職員とご利用者が互いに協力し合い助け合って“ともに暮らす”を実現している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の出来事は写真付きの手紙でお知らせし、状態の変化があった時や相談したい場合にはその都度連絡させていただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在は面会制限等で出来ない状況にあるが、コロナ禍以前はご家族と出かけたり、自宅に帰ったり、ご友人が訪ねてきたりしており、馴染みの関係を大切にしている。	コロナ禍前は家族や友人の来訪を受け入れ居室で過ごしたり、家族と外食などにも出かけています。事業所では初詣や桜の花見、みかん狩りなどに出かけ、楽しめるように支援しています。近くの公園にも弁当持参で出かけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人ひとりの性格を把握し、孤立せずに活動できる環境づくりに努めている。利用者同士のトラブルについては早期解決に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後は管理者や職員が積極的に連絡することはないが、ご家族やご本人から連絡があれば相談、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人から直接お聞きしているが、困難な場合はご家族にお聞きしたり、これまでの生活歴や生活環境の把握に努め、本人本位に検討するよう努めている。	一人ひとりの生活歴や希望などを踏まえ、暮らし方や1日の過ごし方を考えたケアサービスに努めています。日によって時間によって感情の変化を、申し送りにより職員間で共有し、思いに寄り添うケアに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス開始前の段階でご本人やご家族から情報を得てこれまでの生活歴、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメント表を活用してご利用者一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、ADLの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向をもとにケアカンファレンスをおこない、介護計画の見直し、新たなニーズの取り入れをおこなっている。	月1回、計画やケアのあり方についての話し合いを全職員が出席するフロア会議でしています。日中の過ごし方や終末期の人への接し方など、本人や家族の要望を取り入れています。医療面のケアは、訪問看護師を交えて家族と話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録ファイルを活用して、1日1日の出来事や気づき等を記録している。特記事項は赤字で記載し読み落としのないようにしている。読んだらサインを実施して情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	“こうだからこう”というものに捉われず、その時のご本人、ご家族の状況に合わせて柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍以前は将棋やカラオケ、おやつボランティアと交流を持ち、それぞれに参加していた。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な往診の体制も整っている協力医療機関の利用はもちろん、入居以前のかかりつけ医を継続していただくことも可能でご家族、ご本人に選択していただいている。	かかりつけ医は本人・家族の希望により選択しています。月2回の協力医療機関の往診のほか、同病院への通院は職員が同行しています。家族と受診前後の連絡や情報共有に努め、薬の変更などは毎月の家族への手紙で詳細を伝えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回の訪問日以外にも、電話での相談が24時間可能となっている。急ぎではないが相談したいこと等は個人記録の別項に記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、フロアリーダーが入院先のケースワーカーと連絡を取り合い、ご家族も含め、退院の調整をおこなっている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族には、終末期における意向のアンケートを事前に記入していただいている。事業所でできる終末期のケアをご家族にお伝えしてしている。	終末期についての家族の意向確認は入居時のほか、食事がとれなくなるなど本人の状態変化の折にも行います。家族との話し合いは管理者やフロアリーダー、訪問看護師等と行い、ホームでできること、できないことを説明し同意を交わしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応マニュアルを作成している。訪問看護師と連携し、急変時の対応のアドバイスを受けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	区内の消防署に協力いただきながら、通報、消化、避難誘導の訓練をおこなっている。(2回のうち1回は自主訓練)	年2回夜間を想定し、夜勤職員1名の対応で訓練を行い、他職員は改善点などを検討しながら見守っています。近隣の民生委員には、屋外へ避難した際に利用者の見守りの協力を依頼しています。職員への緊急連絡はSNSのコミュニケーションツールを利用しています。	2F入居者の避難方法について、消防署の指導を仰ぐことを考えています。様々なケースを想定して安全な避難誘導が出来るように引き続き訓練が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	否定的な言動はせず、人生の大先輩として言葉かけに注意し対応している。スタッフ同志で気を付け合っている。	呼称は本人の希望など例外を除き、原則として名前に「さん」付けをしています。接遇は「～して」という命令口調を避けるよう留意しています。不適切な接遇はフロア会議での話し合いや管理者からの個別指導により注意喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができるような言葉かけをしている。ご利用者の希望、要望を取り入れて気軽に思いを伝えられる環境づくりに努めている。自己表現が難しいご利用者に対しては、選択肢をいくつか用意して自己決定につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「天気いいけどなにしようか」「今日のお昼ご飯何にする？」等、自然なかたちで聞き出している。全てにおいて無理強いすることなく、出来る限りご本人の希望に沿えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人にお任せしているが、気候に見合わない服装の時やヘアスタイルが乱れている時は、尊厳を守りつつ身なりを整えるお手伝いをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員とご利用者が台所に立ち、野菜カット、盛り付け、食器の片づけ等までもおこなっている。皆のごはんをよそったり配膳をしたり、ご利用者が率先しておこなっている。	献立の予定表を作成せず、利用者の希望を聞きながら日々の献立や食材の購入をしています。利用者は役割を持ち、包丁も使い職員と共に調理をしています。食事は定位置のテーブル、畳のスペース、屋外のバルコニーなど好みの場所でとれるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方に合わせた食事形態で提供している。食事量が少ない方は、高カロリーの飲み物やゼリーで対応をしている。お茶でゼリーをつくり水分量の少ない方の対応をおこなっている。いつでも誰でも飲めるようにウォータージャグも設置している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後は歯磨きをを実施している。支援が必要なご利用者はスタッフが口腔内のブラッシング、義歯洗浄をおこなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用して出来る限りトイレですっきり排泄できるよう、ご利用者のADLに合わせた支援をおこなっている。	入居時にオムツを使用していた利用者が、ポータブルトイレの設置角度の工夫や、利用者への移乗動作支援により、職員による排泄介助が不要となり、夜間もオムツからリハビリパンツの使用が可能となった事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や体操をおこない、体操や散歩後は水分をこまめに摂っていただいている。排泄表を活用して排便の有無を記録し、医師に相談のもと、必要なご利用者には下剤の使用をおこなっている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	いつでも入浴できるようにお風呂は毎日開放している。湯はご利用者ごとに交換しているのできれいな湯でその方の好みの湯加減で入ることができる。入浴剤のほかに菖蒲湯やゆず湯など季節ものも取り入れ入浴が楽しみになるよう工夫をしている。	隔日の入浴に努めています。職員と個別に過ごせる入浴時間を、利用者が思い出話や最近の出来事などをじっくりと話せる機会としています。入浴拒否がある場合は散歩で気持ちの転換を図るなど、個々に応じた対応を工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間は体調や気分に合わせて休息していただけるよう配慮している。乾燥する季節は加湿器を利用して乾燥防止に努めている。夜間眠れない方は温かい飲み物をお出ししたり話を傾聴し、安心した気持ちにつながられるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬事情報は個々にファイリングし、いつでも確認できるようにしている。薬の変更があった場合やようすの変化があった場合等、往診医、訪問看護師に状態の報告、相談をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	これまでやってきた仕事や生活環境を把握し、それぞれの得意分野で培ってきたことが発揮できる環境づくりに努めている。季節のイベントはご利用者と職員と一緒に企画して実現している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍になり、公共交通機関を利用しての外出を自粛しているが以前は鎌倉や江の島、箱根へ出かけていた。毎日の日課の散歩は現在も続けている。	毎日、近隣の神社や公園へ散歩しています。公園ではお茶を飲んだり、手作り弁当でランチを楽しんでいます。近隣のスーパーやコンビニエンスストアなどへ買い物も出かけています。例年、近隣の農園にミカン狩りにも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が可能なご利用者にはお渡しして必要な時に使ってもらっている。自己管理が難しい方も、買い物の希望がある場合はその都度お金をお渡ししてご自分で支払いができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームの電話を使用していただき、大切なご家族やご友人とやり取りができるよう支援している。はがきや手紙が届いた場合は返信できるような支援をおこなっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には皆さんで植えた花を置き、廊下にはホームの仲間の写真や皆さんで作った季節感のある展示物を飾っている。玄関では金魚を、共有スペースではハムスターを飼育してご利用者の癒しになっている。	廊下には昭和30年代を想起させる装飾やポスター、照明器具などを配置し、利用者が落ち着いて過ごせる工夫をしています。庭には桜・柚子・金柑など花や実をつける木が並び、ふき・紫蘇・茗荷・ピーマンなど季節の野菜・花を植えています。利用者が室内から眺めたり庭に出て楽しめる環境を工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者個々の性格を把握し“独り時間”も大切にしている。気の合う方同士でお茶をしたりおしゃべりをしたり、思い思いに過ごせる場所として和室やテーブルと椅子を設置しているバルコニーも利用していただいている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際は、使い慣れた物や馴染みのある物、思い出の物や仏壇等を持ち込んでいただき、見慣れた物に囲まれて安心できる空間になるよう努めている。	居室で収納や整理は本人が行いますが、月1回、各居室の担当職員も、整理しています。衣替えは利用者と職員で一緒に行います。居室で編み物をしたり、玉ねぎやにんにくの手作りのピクルスを食するなど、思い思いに興味を楽しんでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全と自立支援のバランスをとりながら、ご利用者主体の“家”を実現し、ご利用者一人ひとりの出来ることを大切に、維持、向上に務めている。		

事業所名	グループホームしんばしの家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所入り口に貼ってあり、職員間で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍になってからは、以前より減ってきてはいるが、近所へ散歩へ行ったり、近所のみかん狩りなどへ出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で開けていないが、ホーム内で運営推進会議の書面で管理者が発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で会議は開催していない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	相談などがある時は、連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束拘束適正化委員会を定期的に開催し会議を開き、		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	お一人おひとりの日常生活が自立であったり今の日常生活が継続できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に面談や家族に連絡をとり不安な点などを伺っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には電話や、毎月のお手紙でお知らせしている。ご利用者からは日々の会話などから伺います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勤務中や就業時間終了後、会議で話し合う機会を設けてくれたりしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一年に一度の昇給や職員ひとり、ひとりの話を聞く機会を設けてくれて相談にのってくれたりしています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍や、人手不足により中々働きながらのトレーニングは難しいが、会議や時間の空いた時に疑問にあることや困りごとがないか伺っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍もあり、難しい状況なので、できていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居まえにご本人に、お会いして、様子を伺ったり、日々の生活の中で、ご本人に声かけし、安心した日常生活を送っていただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居まえにご家族の要望や、ご本人にどのような、生活を送ってほしいかを、面談、見学の段階で伺い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に、ご本人とご家族との面談で、どのような支援と対応をしていくかを話し合える関係作りに努め、1ヶ月のケアプランを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者一人ひとりにできることを見極めて、食事作りや掃除など、出来ることをしていただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のお手紙や、ご家族が来所された時に、ご利用者がどのように過ごされているかをお伝えしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	コロナ禍でお会いすることは、あまりできていないが、手紙やハガキ、必要な時は、電話などで連絡をとって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	会話など楽しみながら、食事ができるように同じテーブルにしたり、レクリエーションなどご利用者同士が関わる支援に努めている。また、散歩など気分転換できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も電話などで相談を受けている。また、その際にはご様子を伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族の希望に寄り添えるように、日常の何気ない会話の中で把握し、記録に残している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご本人やご家族に今までの生活等について話を伺い、アセスメント表に記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りやご本人に伺ったり、介助する中で状態にきずき、個人記録や連絡ノートに記録している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員会議などでケアのあり方について話あったり、状況に応じて介護計画の見直しや、ご本人やご家族、訪問看護師などと話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	何気ない会話等で気づいた事を個人記録に記入し、情報を共有したり実践の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者一人ひとりに必要なサービスを柔軟に支援できるよう努めている。受診や買い物付き添いなどおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で難しく、支援をひかえている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の病院は伝えただけで、かかりつけ医がいる場合はその医療機関に受診してもよいと伝えている。また、同法人の訪問看護との連携もとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	同法人の訪問看護と連携し個々の日常の関わりの中で、情報を共有し適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に病院のケースワーカーと連絡をとったり、ホームで出来ることを伝えたりしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の看取りなどの確認書でアンケートをとり、家族の希望などを伺っている。気持ちの変化や状況の変化もあると思うので、日頃より信頼関係が築けるよう支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訪問看護師にアドバイスをもらったり、日頃より職員内で急変時の対応は周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力のもと年に二回の避難訓練をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士が注意し合える環境をつくり、対応に疑問等がある場合は会議などで話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身の思いを言える環境をつくり、何かをする時などは、ご本人に伺い行動するようにしている。関りの中で自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとり、その方らしく生活ができるよう、寄り添えるケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人やご家族の希望やこだわりを把握し、日用品の買い物を支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には声をかけて食事の準備や後片付けを、ご利用者と職員で声をかけ合いおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	週1回の体重測定や往診医からアドバイスを受れたり、訪問看護に相談をしたり、個人記録に摂取量を記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりに合った歯ブラシを使用し、ご自身で出来る方には自分でしていただいている。介助が必要な方にはお手伝いをしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表があり、一人ひとりパターンを把握し、トイレ誘導をし、必要があればお手伝いをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	訪問看護と相談をしたり、乳製品を摂取していただいたり、水分摂取をするよう声かけしたり、効果がみられなければ、往診医から処方されている下剤を使用している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2回の入浴を行っている。声かけに対し拒否がある方には時間をおいたりその方のタイミングで入浴している。浴槽のお湯も一回一回交換し清潔保持につとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調やタイミングに合わせて、休息していただいている。冷暖房の環境整備もおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情をファイリングし、変更があれば記録に残している。服薬の支援と症状の変化の確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活の中で一人ひとりに出来ることを一緒に行い楽しみごとが増えるよう支援し、気分転換の把握につとめている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍であまりできてはいないが、近所に散歩や、近くに買い物など一緒に行ったりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご利用者から要望があった場合は職員が買い物へ行ったりしている。ご自分でお金が管理できるかたには管理していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由にご家族や友人に電話をかけていただいたり、電話を受けていただいている。携帯電話を所持されている方もいる。必要があれば、ハガキを買いに行く支援もしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用スペースにはソファなどがあり誰でもくつろぐことができる。季節に合った飾り付けなどもし、トイレや食堂は常に清潔保持につとめている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースはご利用者が自由に過ごせるよう使用していただいている。気の合った同士で談話などできるよう、席を考慮したりしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある物などを、持参していただき、ご本人とご家族にご自分の部屋を作っていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下に手すりを付けたり、杖歩行の方でも安心してトイレに行けたり、希望がある方には不安なく夜を過ごせるようポータブルトイレを設置するなど、安全に自立した生活が送れるよう環境作りをしている。		

2021年度

事業所名 グループホーム しんばしの家

作成日： 令和 4年 6月 30日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、書面での活動報告をおこなっているが、一方的な報告になりがちになっている。	リモートでの会議を開催し、意見交換の場をつくる。	リモート会議が可能か否か、各委員に確認する。可能であれば実施する	2ヶ月
2	10	法人外の研修参加等、現在はしていないことからスタッフがスキルアップできる環境をつくることが出来ない。	研修、勉強会等に参加できる環境をつくる。スキルを身に着けてよりよいサービス提供につなげる。	研修ネット配信サービスや無料配信動画を活用して、自宅や事業所のパソコン、スマートフォン等から研修に参加する。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月